

平成 26 年 5 月 29 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520368

研究課題名(和文)南宋古文の展開とその文体論的研究

研究課題名(英文)Development of Ancient Documents from Southern Song and a Stylistic Study of Them

研究代表者

東 英寿(higashi, hidetoshi)

九州大学・比較社会文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：90218686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最大の成果としては、中国宋代の文人・歐陽脩の書簡九十六篇を南宋本の中から発見したことがあげられる。歐陽脩は今から千年以上前に生まれた中国の偉人である。彼の全集は既に刊行されており、未発見の書簡が存在しているとは全く想定されていなかった。その未発見書簡九十六篇を発見して、2011年の日本中国学会で研究発表を行った。発見のニュースは朝日新聞等の日本のマスコミだけでなく、中国国営通信・新華社が報道し、人民日報や光明日報等多くの中国のマスコミでも報道された。本研究期間に九十六篇の書簡についての研究を進め、それらをまとめて、拙著『歐陽脩新発見書簡九十六篇 - 歐陽脩全集の研究 -』を刊行した。

研究成果の概要(英文)：The most important fruit of this study is the discovery of 96 letters written by Ouyang Xiu, a Chinese literary figure of the Song dynasty, among books from Southern Song. Ouyang Xiu is a Chinese literary figure born more than 1000 years ago. Since complete collections of his works have already been published, it was beyond expectations that any of his letters still remained undiscovered. Based on the discovery of these previously unknown 96 letters, a study was presented at the Sinological Society of Japan in 2011. The news of the discovery was reported not only by Japanese media such as the Asahi Shimbun, but also by China's national news agency, the Xinhua News Agency, as well as by major papers including the People's Daily and the Guangming Daily. During this study period, further development was made in the study of these 96 letters and the results were compiled and published by the author in the form of a book titled "The Newly Discovered 96 Letters Written by Ouyang Xiu".

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学

キーワード：中国文学 宋代文学 歐陽脩

1. 研究開始当初の背景

本研究は、中国宋代、特に南宋時代に注目し、思想・見解を表出する手段である文体を考察することを中心として、南宋の印刷文化や全集編纂等の考察を視野に入れて、南宋の文学の特色を多面的に明らかにしようとして構想した。これまで、宋代は古文復興が行われ、文体が確立した時代だと見なされてきた。その際、宋の前半である北宋時代を中心として考察されることが多く、後半の南宋時代は付随的に言及されることが常であった。本研究は、そこにメスを入れ、南宋時代に焦点を据え、当時の出版、編纂等の状況を踏まえて、文章、さらには文学の特色について考察しようと企図した。

本研究は、これまで看過されてきた対象にスポットを当てることで、研究の蓄積の少なかった南宋時代の文学情勢を明らかにでき、それは中国文学を考える上で有益であると考え、研究を構想した。

2. 研究の目的

本研究は、南宋時代の様々な文章に着目し、その文体の特色を考察することを主な目的とする。さらに文体の考察を通して南宋時代の全集編纂、出版状況を分析することを通して、多角的に南宋の文章や全集編纂等にアプローチをして、北宋文人の南宋における影響や宋代文学の全体像を浮き彫りにすることを目指した。

3. 研究の方法

南宋時代に刊行された文人の全集や作品に見られる文章の考察を行う際に、南宋の文人・劉克莊に注目し、彼の全集に収録されている作品についてその特色を考察した。また、全集編纂の状況については、南宋時代に編纂された『歐陽文忠公集』153巻について、この全集が南宋時代に幾度か刊行されていることを明らかにし、当初の原刻本に、後に作品が添付されていく編纂過程を考察した。かかる編纂過程の考察は、南宋時代に編纂された全集3種類を収集した上で、それらを詳細に比較するという方法で研究を進めた。

4. 研究成果

本研究の最大の成果としては、南宋時代の全集編纂を考察する過程で、これまでその存在が全く知られていなかった中国宋代の文人・歐陽脩の書簡九十六篇を南宋本の中から発見したことがあげられる。歐陽脩は今から千年以上前に生まれた中国の偉人である。彼の全集は既に刊行されており、未発見の書簡が存在しているとは全く想定されていなかった。この書簡九十六篇を世界で初めて発見したことについて、2011年に開催された日本

中国学会で「歐陽脩の書簡 96 篇の発見について」と題して研究発表を行った。この研究発表は、非常に関心を集め、歐陽脩未発見書簡 96 篇を発見したことについては、日本の朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日経新聞、西日本新聞等に記事が掲載され、時事通信や共同通信で配信されたことにより、多くのネットにも記事がでた。たとえば国宝ニュースや 47 ニュース、時事ドットコム、海外情報ニュース、楽天 woman、eo ニュース、サーチナ、レコードチャイナなど。

さらに、中国では中国国営通信の新華社がこの発見についての記事を配信し、それを受ける形で、長江日報、遼寧日報、広州日報、瀟湘晨报、陝西日報、羊城晚報、東楚晚報、文匯報、香港文匯報等の多くの新聞に発見の記事が転載され、人民網や新民網等の数多くのネットでも記事が引用されて、今回の発見は中国で多大な反響を巻き起こした。その後もネットでは、多くの記事が掲載されて、たとえば 2011 年 11 月 15 日の人民網では「国宝級文物歐陽脩 96 篇書信現日本」と題して特集も掲載された。日本中国学会での発表が終わった翌日には、人民日報の東京支局長から取材の申し込みがあり、10 月 14 日に九州大学の本部で取材を受けた。この記事は 2011 年 11 月 14 日の人民日報に掲載された。12 月には光明日報の東京支局長が取材に来た。研究室で取材を受けたので、記者には実物の資料を見せることができ、より具体的に説明できた。この記事は、研究室にある資料の写真とともに 2012 年 1 月 7 日の光明日報に掲載された。2012 年 5 月に刊行された『武漢大学学报』においては「新発見歐陽脩書簡研究專題」として特集されて、私が発見した 96 篇の書簡に関連する中国学者の論文が 4 本掲載された。中国や台湾、マレーシアの学者からも問い合わせのメールが多数届いた。このように、日本のみならず海外での反響も凄まじいものであり、これは千年以上前に生まれた歐陽脩という偉人の未発見書簡が存在していたという事実への驚き、しかもそれが九十六篇も大量に出てきたという衝撃、さらに本場の中国ではなく日本から出てきたという意外性、これらが合わさって巻き起こされたのだと思われる。

これら新発見の九十六篇の書簡については、本研究期間に研究を総合的に進め、『歐陽脩新発見書簡九十六篇 - 歐陽脩全集の研究 -』としてその成果を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

(1)東英寿、李之亮箋注『歐陽脩集編年箋注』の問題点について、比較社会文化 17 巻、平成 23 年 3 月、pp7-16

(2)東 英寿、從虚詞使用法來考察曾鞏古文的特色、蛻變與開新 古典文学國際學術研討會論文集、平成 23 年 7 月、pp187-200

(3)東 英寿、周必大原刻本『歐陽文忠公集』百五十三卷について、中国文学論集 40 号、平成 23 年 11 月、pp61-75

(4)東 英寿、新見九十六篇歐陽修散佚書簡輯存稿、中華文史論叢 2012 年第 1 期(105 期)平成 24 年 3 月、pp1-28

(5)東 英寿、新発見の歐陽脩書簡について、九州中国学会報 50 卷、平成 24 年 5 月、pp1-15

(6)東 英寿、新見歐陽脩書簡考、東華漢学 15 期、平成 24 年 6 月、pp275-288

(7)東 英寿、新見歐陽脩書簡九十六篇散佚原委考、第二届中国古典文献学國際學術研討會論文集、平成 24 年 7 月、pp69-81

(8)東 英寿、歐陽脩の書簡九十六篇の発見について、日本中国学会報第 64 集、平成 24 年 10 月 pp113-127

(9)東 英寿、歐陽脩新発見書簡の特色について 新発見書簡 70「又(與孫威敏公)」、42「與劉侍讀」、69「與杜郎中」、70「又(與杜郎中)」四篇と通行本書簡との内容重複に着目して、比較社会文化 19 卷、平成 25 年 3 月、pp113-127

(10)東 英寿、中国国家図書館蔵南宋本《歐陽文忠公集》考、第七屆宋代文学國際研討會論文集、平成 25 年 8 月、pp95-101

(11)東 英寿、劉克莊の鑑定眼 - その詩文創作觀との関連 -、比較社会文化 20 卷、平成 26 年 3 月、pp53-59

その他(訳注・書評等)(計 10 件)

(1)東 英寿(書評) 洪本健『歐陽修詩文集校箋』、中国文学報 80 冊、平成 22 年 10 月、pp142-152

(2)東 英寿、甲斐勝二《晚唐五代の文学批評・緒論》訳注(上) 福岡大学人文論叢第 42 卷第 3 号 平成 22 年 12 月、pp821-842

(3)東 英寿、甲斐勝二《晚唐五代の文学批評・緒論》訳注(下) 福岡大学人文論叢第 43 卷第 1 号、平成 23 年 6 月、pp245-259

(4)東 英寿、歐陽脩の書簡九十六篇発見記(上) - 九十六篇はなぜ忘却されてしまったか -、東方 376 号、平成 24 年 6 月、pp2-5

(5)東 英寿、甲斐勝二《明代文学批評・緒論》訳注(上) 福岡大学人文論叢第 44 卷第 1 号、平成 24 年 6 月、pp269-292

(6)東 英寿、歐陽脩の書簡九十六篇発見記(中) - いかにして発見は生まれたのか -、東方 377 号、平成 24 年 7 月、pp6-9

(7)東 英寿、歐陽脩の書簡九十六篇発見記(下) - 日本、中国における反響 -、東方 378 号、平成 24 年 8 月 pp12-15

(9)東 英寿、甲斐勝二《明代文学批評・緒論》訳注(下) 福岡大学人文論叢第 44 卷第 4 号、平成 25 年 3 月 pp803-823

(10)東 英寿、詞籍「提要」訳注稿(二)「六一詞」訳注、風絮第 9 号、平成 25 年 9 月、pp90-101

〔学会発表〕(計 16 件)

(1)東 英寿、五山文学と『漢学紀源』について、九州大学比較社会文化学府・国立台湾大学日本語文学系所合同研究会(九州大学)、平成 22 年 4 月 24 日

(2)東 英寿、近年出版の三種の歐陽脩全集について、第 14 回宋代文学研究談話会(大阪大学)、平成 22 年 5 月 22 日

(3)東 英寿、從虚詞使用法來考察曾鞏古文的特色 - 與歐陽脩文風之比較 -、蛻變與開新 - 古典文学國際學術研討會 - (台湾・東吳大学)、平成 23 年 4 月 30 日

(4)東 英寿、周必大原刻本『歐陽文忠公集』について、第 59 回九州中国学会(鹿児島大学)、平成 23 年 5 月 14 日

(5)東 英寿、歐陽脩の書簡 96 篇の新発見について、第 254 回中国文芸座談会(九州大学)、平成 23 年 7 月 30 日

(6)東 英寿、中国国家図書館蔵南宋本《歐陽文忠公集》考、第七屆中国宋代文学國際學術研討會(中国・河南大学)、平成 23 年 9 月 17 日

(7)東 英寿、歐陽脩の書簡 96 篇の発見について、第 63 回日本中国学会(九州大学)、平成 23 年 10 月 8 日

(8)東 英寿、新見歐陽脩九十六篇散佚経緯考、南開大学招待講演(中国・南開大学)、平成 24 年 3 月 5 日

(9)東 英寿、新見歐陽脩書簡九十六篇散佚原委考、第二届中国古典文献学國際學術研討會(台湾・東吳大学)、平成 24 年 4 月 27 日

(10) 東 英寿、歐陽脩書簡九十六篇散佚之
發現（招待講演）2012 歐陽脩国際学術研
究会（中国・井冈山大学）平成 24 年 8 月 25
日

(11) 東 英寿、歐陽脩新発見書簡の特色に
ついて 新発見書簡 70「又（與孫威敏公）」、
42「與劉侍讀」、69「與杜郎中」、70「又（與
杜郎中）」四篇と通行本書簡との内容重複に
着目して、第 262 回中国文芸座談会（九
州大学）平成 24 年 11 月 16 日

(12) 東 英寿、歐陽脩書簡九十六篇之發現、
台湾師範大学招待講演（台湾・台湾師範大学）
平成 25 年 10 月 28 日

(13) 東 英寿、從虚詞的使用看歐陽脩古文
特色、「跨国界的文化伝承」計画講演（台湾・
台湾大学）平成 25 年 10 月 29 日

(14) 東 英寿、日本漢籍與唐宋文化研究的
關係（歐陽脩書簡九十六篇之發現）、「跨国界
的文化伝承」計画講演（台湾・台湾大学）
平成 25 年 10 月 30 日

(15) 東 英寿、歐陽脩新発見書簡九十六篇、
人文經典研読課程系列演講（台湾・東華大学）
平成 25 年 10 月 31 日

(16) 東 英寿、劉克莊の鑑定眼 - その詩文
創作觀との関連 -、第 3 回江湖詩派研究国際
シンポジウム（早稲田大学）平成 25 年 11
月 23 日

〔図書〕（計 2 件）

単著

東 英寿、『歐陽脩新発見書簡九十六篇 -
歐陽脩全集の研究 - 』、（研文出版、平成
25 年 2 月、全 226 頁）

共編著

東 英寿、秋吉 収編『異文化を超えて -
“アジアにおける日本”再考 - 』、（花書
院、平成 23 年 11 月、全 183 頁）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
東 英寿 (HIGASHI HIDETOSHI)
九州大学大学院比較社会文化研究院教授

研究者番号：90218686

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：